

# フィールドガイドのための ファシリテーション講座

開催しました！



- 日時 令和3年10月23日（土）13：00～17：00
- 会場 東かがわ市北山コミュニティセンター 及び山田海岸
- 講師 （株）ONDO代表取締役 谷益美 氏

10月23日（土）、東かがわ市北山コミュニティセンター 及び山田海岸にて、「フィールドガイドのためのファシリテーション講座」を開催し、7名が受講しました。本講座は、里海づくりをけん引する人材を育成する一環として、ファシリテーションについて学び、場づくりのコツや参加者同士の交流の深め方を、実践を通じて身に付ける事を目的として開催しました。

## ■自己紹介

はじめに、自己紹介で受講生同士、参加の目的や課題を発表しました。

講師より、自己紹介を通じて、参加の目的を“見える化”することの重要性や、初めて顔を合わす参加者が多い場合、少数でウォーミングアップの話をした後に全体発表に移る事でスムーズに進行できたりする“場づくり”のコツ、多様な参加者に対応できる“書く”ことの重要性などを学びました。



## ■ファシリテーションとは？

自己紹介の後、振り返りを行いました。受講生は、自身のこれまでの経験を振り返りながら、改めてできていたことや、新たな気づきがあった様子でした。講師からは、自身の経験談を交えて、自分の目的と相手の目的を理解、整理する事の重要性を学びました。整理に役立つ具体的な手法として、AIKAPP分析（聴き手・興味・知識・態度・ポジション・政治的傾向）の紹介もありました。興味のない参加者や、保守的な参加者が多い場合、あらかじめ興味を引くコンテンツを用意しておくことや、回答の選択肢を用意することで円滑な進行ができるなど、“場づくり”のコツも教えていただきました。

## ■ファシリテーションスキル4つの視点

休憩をはさみ、ファシリテーションで重要な4つのスキルについて学びました。運営に任せきらずに、積極的に名刺交換などを行うことや、適宜、効果的なアイスブレイクを活用することで、場の空気を和ませることを学びました。また、アイコンタクトや、うなづき、相づちなどをうまく使うことで、発言することへのハードルを下げることや、話しそうな人や困ってそうな人を観察する事の重要性も学びました。記録のスキルでは、発言者に、「何と書けばいいですか?」と問いかけたり、自分がまとめられなければ、本人にまとめてもらうテクニックも学びました。アイスブレイクについては、好きな人もいれば嫌いな人もいるので、嫌いな人をいかに捨てるかが進行のカギになると説明がありました。

## ■ファシリテーションスキルセルフチェックシート

ファシリテーション時の自分を振り返り、チェックシートを用いて個人チェックを行った後、全体で共有しました。受講生からは、「自己流でやっていた。進行が雑になっていることに気づいた」、「参加者に合わせてコミュニケーションの取り方をコントロールできていないことに気づいた」、「(ファシリテーション)と(教える)の違いに気づいた」などの感想が上がり、各々で新たな気づきを得ている様子でした。

## ■ソーシャルスタイル

「ソーシャルスタイル」とは、人の言動を4つのスタイルに分けて分析し、相手が望ましいと感じる対応を探し、選択する方法として活用されています。ソーシャルスタイル理論を理解することで、コミュニケーションがスムーズになるとされており、講師より自己流+ソーシャルスタイルを意識したコミュニケーションを図る事でより良い場づくりができると説明がありました。

## ■イベントデザインシートを用いたフィールド研修

山田海岸へ移動し、2つのチームに分かれてフィールド研修を行いました。気候(暑さ・寒さ)への対応や、下見をすることで見える事前対応など、参加者の目線に立った基本的な考え方を学びました。また、山田海岸をフィールドツアーの舞台と仮定し、「海がキレイ」というお題に対して各々で「問い」を立てました。「その”キレイ”はどこからくるか?」「何に感動するのか?」など、「問い」をいくつもシミュレーションしておくことが大切だと学びました。



## ■一日の振り返り

フィールド研修の後、北山コミュニティセンターへ戻り、振り返りを行い、意見・感想・質問・気づき・発見・学び・これからの行動・一番印象に残ったことを各チームで共有した後、全員で共有しました。「定期的に勉強すべきだと思った。自分の経験値が変わると感じ方も違う。」、「初心に戻ってやってみようと思った」、「予習してきたが、課題に対しては答えが出なかった。今後も継続して参加したい」など、ガイド経験者も未経験者も、各々の課題を再確認した様子でした。